

第404輯

わが町と原

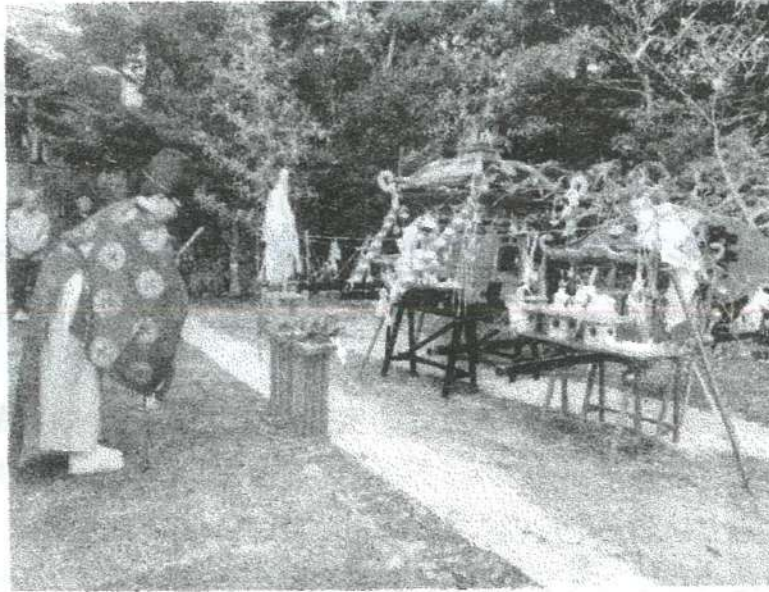
みはら歴史と観光の会

平成33年3月創刊
月刊

令和6年

11月号

長谷神社の秋祭り



〔神輿担ぎ上げ〕



〔神楽奉納〕

〔還幸祭で神輿の魂が元に納まった〕

2024.10.20 長谷神社にて

撮影 瀬畑 雅恵(小坂町)

10月20日、長谷神社の祭りが開催された。旧長谷村の小坂、長谷、沼田・新倉の4町が3年毎に輪番で世話され今年も長谷でした。神輿は各町内にあったが、担ぎ手不足等で途絶えていたものを、20年程前に小坂町で復活、以来毎年継続されているとかで、本殿前の石段を勇者が駆け登る姿は迫力満点で、これぞ祭りの花形と感じられた。

午前中に町内を回った子供と大人の神輿は、広場の聖地に安置され、神主さんの祝詞で魂が無事元に納まった。

他に大和町の神楽も奉納され、伝統的芸術を軽妙に演じる姿に引き込まれ、明るい雰囲気があった。

十一月の行事

各地の行事

09日(土)	10:00～	第21回三原浮城まつり 三原城跡歴史公園を中心に 小早川甲冑部隊練り歩きや浮城茶会他
10日(日)	11:00～	御調八幡宮 秋季例大祭(神事・第二回社のコンサート)
23日(土・祝)	11:00～	賀羅加波神社 新嘗祭
06日(水)		レキキャンパス研修旅行(岡山城・神辺方面)
30日(土)	10:00～	三原城・町村略史(4) サン・シープラザ4F いずれも実施要領は12頁に記載

P 1	表紙…表題：長谷神社の秋祭り	行事予告
	写真：還幸祭で神輿の魂が元に納まった 神輿担ぎ上げ 神樂奉納	
2	土器と土偶と太宰とねぶたに、首長と地元の大英断旅	沼田東町 津島 敏子
3~4	わが土地の神社「長谷神社の神話伝説」	長 谷 関 浦 敏
5~6	歴史講演「妙正寺350年の歴史」記録(完)	三原市文化財協会 前会長 橋本敬一
7~11	三原の、広島県の、江戸期の陸上交通(6)	中之町 三好 邦範
12	会よりの便り	事務局



しも つき
霜 月

今月の各地



きのえ たつ
甲 辰

むら くら。

AJ2684

令和 六年

AD2024

まち まち 歳時記

土器と土偶と太宰とねぶたに、首長と地元の大英断旅 沼田東町 津島 敏子

昨年、誘われて世界遺産縄文遺跡群の青森を訪ねた。6泊7日の旅である。清水の舞台どころかスカイツリーから飛び降りたつもりで出かけたが、フラフラと執着せず、何事にも浅学を旨とする私には、厳しい旅でもあった。縄文マニアを自認する友人の熟考したコースに沿って、来る日も来る日も土器の欠片と土偶との無言の対面。とは言え、さすがの世界遺産。

中でも、是川遺跡博物館の圧倒的多数の国宝遺物、しかもその効果的展示はさながら異空間にさ迷い込んだかのようにであった。荒涼とした風景の中忽然と現われる八戸埋蔵文化財センター是川縄文館。泉山岩次郎・斐次郎兄弟の情熱と誇りによって現在の姿につながっていること。寄贈を受けた市や研究者たちの遺跡整備の熱意と努力。国家予算ももちろんあったとは思いますが、時の首長や地元の圧巻の展示館建設の大英断を想う。

さすがの三内丸山遺跡。圧倒された五所川原^{たちねぶた}立倭武多の館。そしてそして金木の太宰治記念館「斜陽館」、いつか訪れてみたい、空気に触れたい一番の場所であった。太宰の父が贅を尽くして建て、農地改革で手放し、旅館「斜陽館」として営業46年、H8年旧金木町が5億円以上で買い取って現在に至る、大豪邸である。

当時、人口13千人弱の町であったという。おそらく町予算に占める割合はかなりであったろう。写真や映像ではわからなかった金木の空気感。果ては、よくぞ買い取って残してくれたと、時の首長や町民の大英断を想うことである。行ってみなければわからないことが沢山あったと思う。当たり前だけど…

以下記憶にあるもの。青森弁の温かさ。主要道路の歩道の異常な広さ(除雪の積上場所)。家々の99%?のトタン屋根(豪雪のため軽く)。どこからでも(場所による)見える津軽富士(津軽平野の広さ)。国史跡根城(八戸城)に建つ写真も凶面もなかった復元風御殿(指定から文化財法制定の間隙を縫って建てられた)。…ただただ金色堂…に青いポスト。眼帯はしていない伊達政宗。小学校移転計画を白紙にした仙台地底の森ミュージアム。等々。

思い切って出かけてよかった、と心から思う。